

TOMAS(Azure)クラウド IME言語バー設定手順書

<目次>

- | | | |
|----------------------------|-----|--------|
| 1. クラウドシステムにおけるIME設定について | ・・・ | P2 / 9 |
| 2. 以前のバージョンのIME言語バー表示にする方法 | ・・・ | P3 / 9 |

1. クラウドシステムにおけるIME設定について

TOMAS-PS(Azure)クラウド環境利用時に、今まではローカルPCのIME言語バー表示のみでしたが9/16以降はクラウド側の設定変更により、利用者様のPCにクラウド用IME言語バーが表示されるようになります。

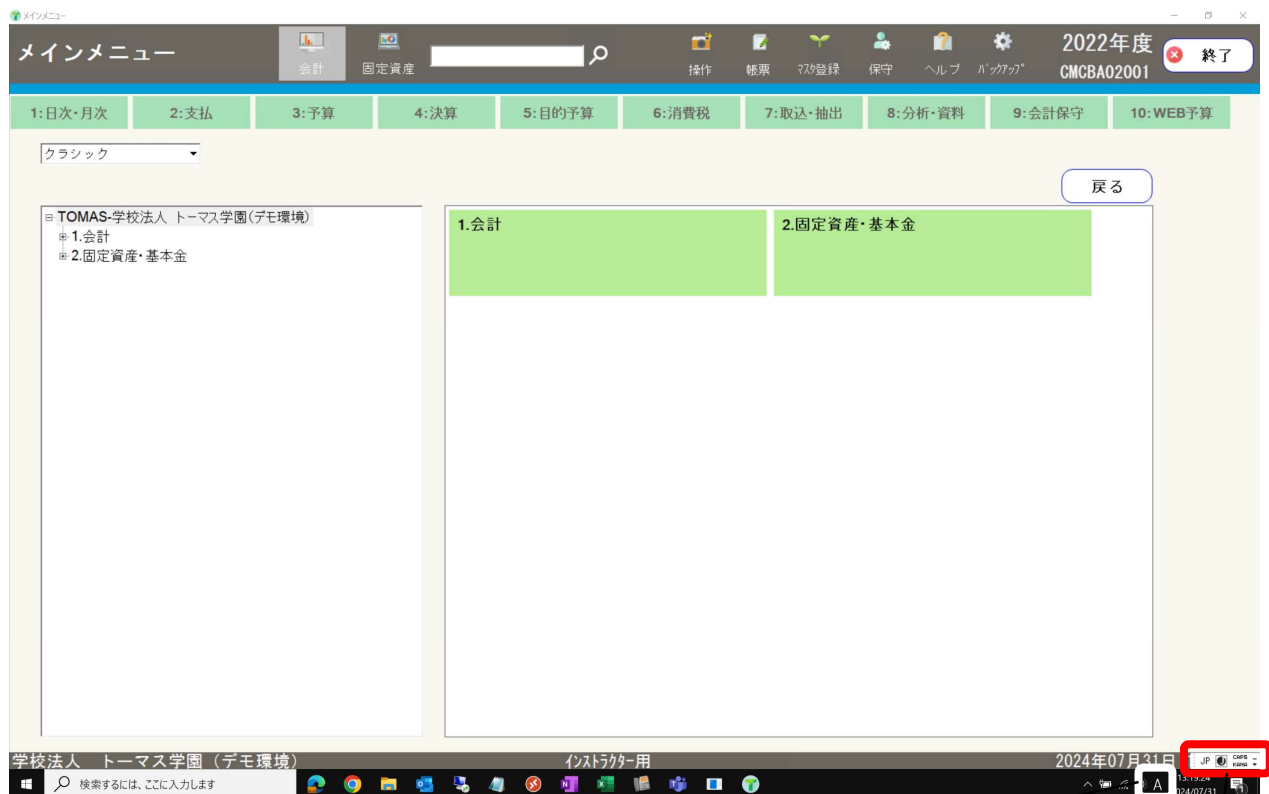
※ローカルPCのIMEとは別にクラウド用のIME言語バーが表示されます

クラウドシステムをご利用の場合、IMEの設定はクラウド側にて行う必要があります。

(ローカルPC側のIME状態(日本語入力オン/オフ、ローマ字入力/かな入力、手書き文字検索、単語登録など)は、クラウドシステムには反映されません。)

これまではクラウド側で設定するため、都度『Ctrl』+『F10』キーでIMEパッドを呼び出す必要がありましたが、クラウド用のIME言語バーを表示することにより直観的な操作が可能になります。

<9/16以降の画面>



■ ローカルPCのIME言語バー



■ クラウド利用時に表示されるIME言語バー



(初期状態)

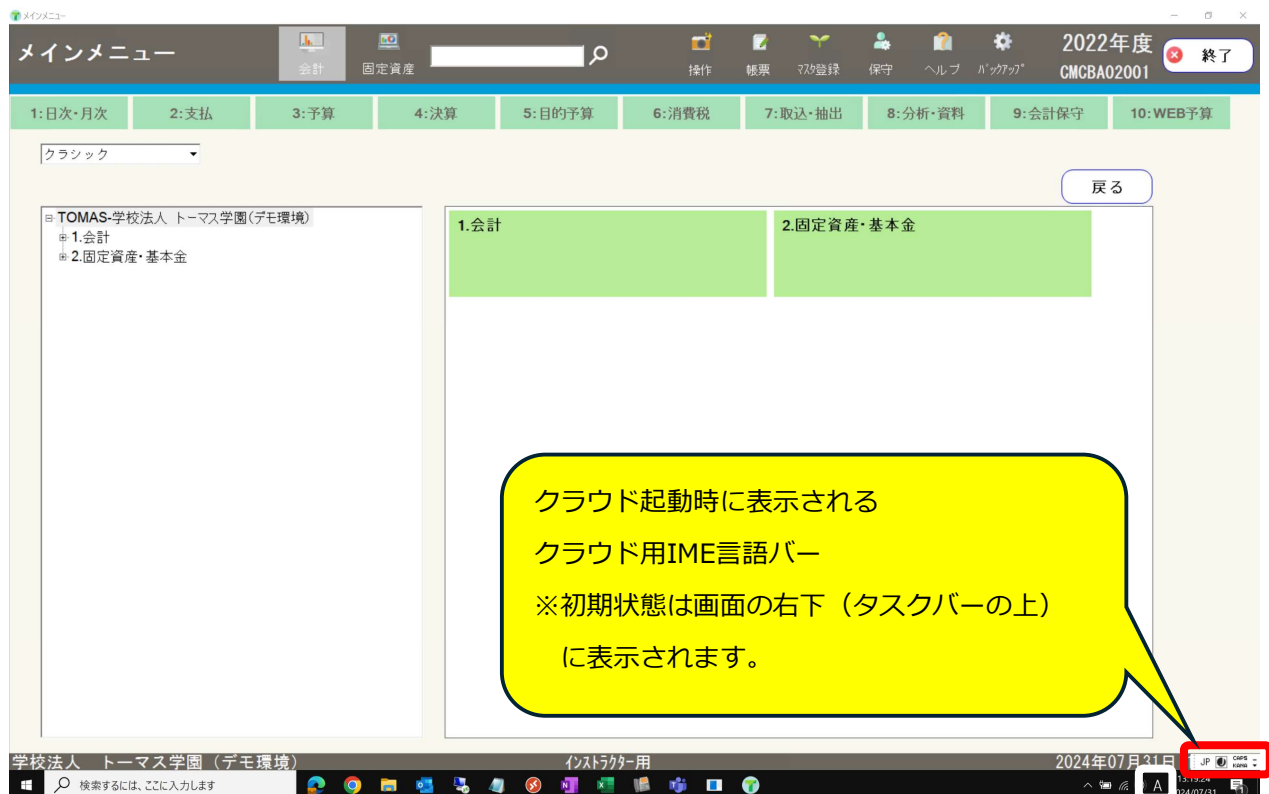
2. 以前のバージョンのIME言語バー表示にする方法

新たに表示されたクラウド用IME言語バーを以前のバージョンに切り替えると、手書き入力、単語登録、辞書ツール等も、より直観的な操作が可能になります。

■新たに表示されたIME言語バー（初期状態）



■以前のバージョンのIME言語バー



次ページより、クラウド用のIME言語バーを以前のバージョンのMicrosoft IME言語バーに切り替える手順を案内します。

【注意】 この設定は、クラウドを利用するユーザーIDごとに設定が必要になります。

<手順>

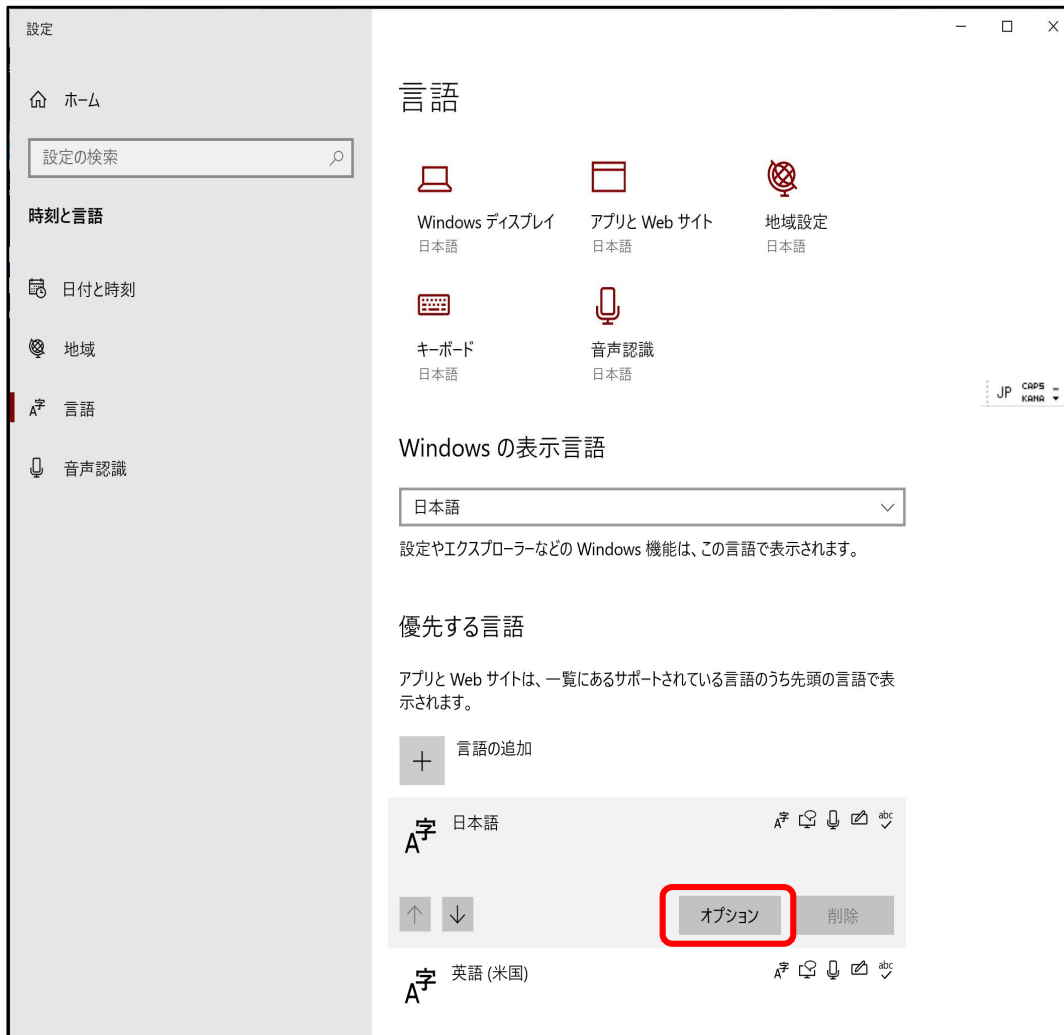
1. クラウド用IME言語バー  を右クリックし『設定』をクリックします。



2. 設定画面が表示されますので、『優先する言語』にある『日本語』をクリックします。



3. 日本語の下に表示される『オプション』をクリックします。



4. キーボードの追加の下にある『Microsoft IME』をクリックします。



5. Microsoft IMEの下に表示される『オプション』をクリックします。



6. Microsoft IMEの『全般』をクリックします。



7. 全般画面を一番下までスクロールし『互換性』にある

『以前のバージョンのMicrosoft IMEを使う』がオフになっている場合、クリックしてオンにします。



8. 『IMEバージョンの変更』の画面が表示されますので『OK』をクリックします。



9. 『以前のバージョンのMicrosoft IMEを使う』 がオンになったことを確認し、右上の×で画面を閉じます。



10. TOMAS画面での確認

会計システム仕訳入力画面の例です。

摘要やメモ欄など、日本語入力を行う項目を選択してください。

(給与システムは教職員登録、学費システムは学生生徒マスタ登録など)

クラウド用のIME言語バーが以前のバージョンの形式で表示されていることを確認します。

クラウドでTOMASを利用される場合は、こちらのIME言語バーより設定を行ってください。